



森のなかま

2008年11月

NO. 7 (継続152)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 島岡 功

“やどりきの暮らし今昔”

寄の方々との交流会

森林文化部会

第1話

さる9月21日ブラッシュアップ（間伐材の有効利用と搬出方法・やどりき水源林の歴史）終了後（16：00～18：00）、ブラッシュアップの内容の続きとして、寄の方々、“やどりきの暮らし今昔”というタイトルで地元の方々と懇親会を開催しました。

初め、現在寄で活動をされてる“寄自然休養村ホテルを育てる会”のことを安藤彬様に、



安藤 彬様 「ホテルを育てる会」の話

“プロジェクトやどりき”のことを大館敏雄様にお話をして頂き、その後1時間半程、各テーブルごとに座談会をいたしました。

寄の暮らし今昔のことを、ほんの一寸ですけど知ることができました。又地元の方々とも知り合いになれましたし、我々が水源林で活動するに当たり多少なりとも参考になればと思います。そしてこれからも交流を続けてゆきたいと願います。

島岡理事長の挨拶



森本さんの乾杯で座談会始まる



座談会のはなし

○ 大館守吉さん (第一テーブル、写真中央の方)



大館守吉さんはの少年時代は畑や山仕事を

手伝い、終戦後寄植林再開時森村組に入社され震災被害を受けた寄山林の治山事業に長年従事されて来られたそうです。その間、15年にも及ぶ樹木の調査は、心に残る作業とお話されていました。

今は75歳になられ、田畑を耕し、1町歩の山林の手入れをし、冬場は狩人マタギとして鉄砲撃ちをし、寄での暮らしを満足そうに話してくださいました。

・暮らしの支えになった炭焼きの話

二基の炭焼き窯で一年を通しての木炭生産は、土木作業の日当が四百円時代に、

炭焼きで得た収入は日額二千円にもなったそうです。

炭俵を山から出す近隣住人、家族総出の運び屋さん、10円/俵の運び賃も当時では貴重な現金収入。そんな炭焼きも昭和32年までの話。

又当時は椎茸作り、畑では煙草葉作りもされたそうです。

・村人総出の萱の刈り取り

寄には、弥勒寺・宇津茂などに5町歩

の萱場があり、村で管理していたそうです。12月に入ると朝6時に家を出、一日60束を刈り取り一段6束を10段に積み置きし、1月の萱出しは、天地を逆さまに6束を背負い山から運び出したそうです。萱葺き屋根の耐用年数は、約30年とか。屋根の葺き替えは、順繰りに行い、村人総出で手伝う習慣になっていたそうです。そんな萱葺き屋根の家も、昭和42年頃寄の村から姿を消したそうです。

・狩の話

昔は、森にワナを仕掛けてイノシシやシカなどの捕獲もしたそうです。

一発で仕留められなかった手負いのシシを抱え込み、身の危険を感じながら息の根を止めたこともあったそうです。狩人8人猟犬2頭で狩に出かけた時、捕獲した獲物の配分は1/10ずつとするのが約束事だったそうです。

(つづく)



水棚沢出合い付近



昭和37年冬

昔、なつかし寄小屋

私の認識

野鳥その61

高橋 恒通

★今月から、ツル目クイナ科の野鳥についてご案内致します。

最初は、東北地方以北で繁殖するので夏鳥、それより南では冬鳥のクイナ(漢和名:秧鶏、水鶏、英名: Water Rail)、体長L=29cm、♂♀同色についてです。

体色は、頭頂から後頸、胸側、背面全体が濁茶褐色の地に黒色の縦斑があり、その黒色縦斑は、頭頂が小さく順次翼羽にかけて大きくなります。そして、喉下から胸前、顔が、ヒヨドリの体色に似た灰色、脇腹から下尾筒に白黒の横斑がハッキリと目立ちます。

私の認識では、朱色でやゝ長めの嘴と太く淡橙黄色の脚と長い指が同定のポイント。

棲息域は、平地や低山にある水辺の草地、葦原、休耕田、葦の茂った田んぼの水路などで、繁殖期以外は単独行動です。採食は、昆虫類、魚類、甲殻類、軟体動物、そして植物の種などとの事です。

鳴き声は夕方から早朝にかけて、「キューイ」とか「キュッキュツ…」と発声するそうです。

私は平成2~3年頃に、茨城県龍ヶ崎市近くの小貝川に通ずる田んぼの水路の葦の茂みで、この野鳥を何度も観察しました。多くは早朝散歩の折だったのですが、鳴き声は残念乍ら聞いた事ありません。

水辺の葦の中を歩き廻って採餌するのに適した丈夫な脚と長い指、そしてその先端が黒く朱色の良く目立つ長めの嘴を、双眼鏡の中でジックリと観察し記憶しています。

側面からは、嘴の長さを無視すれば、鶏冠トサカが無くて頸の短い軍鶏モリトリを彷彿させる体形ですが、正面からは、葦の茂みを自由に移動するのに都合良く進化した事を窺わせる程にスマートだったと覚えております。

(クイナ)



歩き廻るのが得意なのに反して、飛ぶ方は余り上手とは思えません。私の推測ですが、体重に比して翼面積が小さい為の様です。

故に飛び立つ時には、翼をバタつかせてせわしなく飛び上がります。そして7~8m先の葦の中へ落ち込む様に移動した場面を私は一度だけ観ました。その時は高さも2~3m位の所を平行移動の様でした。

然も両脚をダラリと、丁度、飛行機が離陸した直後のメイン車輪が格納途中の如き角度で下げたまゝでした。

私が想像するに、クイナもキジやヤマドリ等と同じく、緊急避難のとき以外には飛翔をしないのではないかと思っております。

一般論として、水辺や湿地を生活の場としている大形~中形の野鳥、例えば、ツルやコウノトリ、そしてサギ類は、飛翔中には両脚をまっすぐ伸ばし、尾羽にピタリと密着させて飛ぶのが普通です。但し、ゴイサギの幼鳥(ホシゴイと呼ばれる体色の個体)が、何かに愕き慌てゝ飛び立ち、数メートル先に移動する時には、クイナのそれと同様に両脚を下げていた場面を幾度か目撃しています。尚、クイナの嘴の朱色は繁殖期は目立ちますが、葦の枯れた冬期の嘴の色は、暗褐色で基部に朱色が残る程度に変化します。

二番手は東北地方以北で夏鳥、その外の地方では旅鳥、又は冬鳥のヒメクイナ(漢和名:姫秧鶏、英名: Baillon's Crake)、体長L=20cm、♂♀同色です。体色はクイナに似てるが体が小さく、嘴が短く黒い処が同定のポイントです。神奈川県下でも観察記録が非常に少ない野鳥だと認識しております。

棲息地域はクイナと共通した部分が多い為に「アッ、クイナの幼鳥だッ」と軽卒に判断されている可能性が高いからだと思います。

(ヒメクイナ)



実は私も小貝川の支流で、梅雨の頃に葦の茂みで目撃した個体は、若しかしたらヒメクイナだったかも知れません。

<参考資料>

○日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑7、写真・解説/叶内拓哉、分布図・解説協力/安部直哉、解説(鳴声)/上田秀雄、山と溪谷社。

○ヒメクイナ、クイナ、写真・ウイキペディア百科事典より

本の紹介



野外生活雑学図鑑

アウトドアライフを楽しむ会 編著

日頃からアウトドアに馴染んでいる方にとっては、当たり前にも思われている内容を素人に判るように書かれております。ある意味丁寧すぎる嫌いもありますが、応急措置や道具類についても最新の知見をさり気なく書き込まれており、玄人を自称する方も既往知識の点検の意味で御覧頂く事をお勧めします。

内容は、表題の通り衣・食・住に関するだけでなく快適性・安全性・非常時まで書かれており野外生活全般の手引書・入門書となっております。これを全5章にまとめておおよそ1ページ1項目で書かれています。もう少し詳しい説明の欲しい項目も散見されますが、幅の広いアウトドアライフを一冊にまとめるにはこの程度かなと思います。

内容的には、キャンプを含む野営主体の項目が多くなっておりますが、溪流での渡渉や釣り、動植物の観察、観察の為の道具、生態への配慮やマナーについても、更にわが身の保全対策や安全対策への注意、非常時のサバイバル等が網羅されています。

この本の中で、他の本では記載される事の少ない項目がいくつか目に付きました。国土地理院の地図の折り方は、余り目にした事はありません。小生も、若かりし頃ワンダーフォーゲル部の仲間に教えてもらい納得しました。他に熱中症、日焼け、蛇・虫刺され、雪盲、骨折・捻挫等の緊急時を一括掲載してその対処法を解説していると共に身近な薬草まで挿入している。どう対処すれば良いかを個別に書き込んであり、非常に判り易い。

GPSの有効利用を解説しているかと思えば雲行きによる天気予測や天体観測のちょっとした知識を書き込んで最新の機器の利用と共に日常の体験から覚えた知見を上手にまとめている。

山林原野のアウトドアライフ主体であるにも拘らず、釣りの項では釣り糸の結び方が竿先や繕り戻し、糸と糸の結び方等を区別して図示されていたり、観察の項ではカメラの持ち方まで記載されているちょっと変わった本です。 (大和書房 1,500+税) <8期 堤>



北八ヶ岳は 2000m の白駒あたりで積雪はないけれど、毎日雪がちらつき、山麓にある竹内さん (7期) のペンション周辺は 11月連休明けには紅葉前線が舞い降りてくるそうです。連休明けの宿泊はまだ余裕あり。日本一の山上池白駒池と結んで紅葉狩りもよし、野鳥にくわしい竹内さんの案内で、冬鳥観察を計画されてはいかがですか？
(左：白駒荘直営エルケーナ・右：八ヶ岳自然ヒュッテ)

北八ヶ岳からのお便り



予約電話：0551 - 47 - 4886

山菜を楽しむ

その8 こんなものが? ユキノシタ (A) 有田保彰

最近、とんと耳にしなくなった言葉の一つが「エンゲル係数」。全体の収入のなかで食費が占める割合は、低所得層ほど高いという、あのエンゲル係数です。

前シリーズ第9回(本誌139号)の冒頭で、今、最も贅沢な生活は、という話に触れました。自分が食べるもののうち、どれだけたくさんを買わずに済みますか、言い換えると、貨幣経済の枠外で、どれだけ食料を調達しているだろうかという話です。身近に豊富な自然が残っていて初めて可能になることなので、その意味で文字どおり「贅沢」な生活と言えます。

大げさに言えば、狩猟採集生活が占める割合ということなのですが、山菜を採る、木の実を拾う、魚を釣る、貝を拾う、海藻を拾うなどは、立派な狩猟採集生活。

この比率を、ニューエンゲル係数と呼ぶのは冗談に過ぎるでしょうか。

河川敷とか里山のあちこちにある休耕田畠に賑やかに並んだ一坪農園や、小さな庭の片隅にインゲンやトマトやキュウリが生っているのを見かけると、ニューエンゲル係数の対象として声援を送りたくなります。

もっとも、菜園の野菜も採った山菜も釣った魚も、国民総生産や日本の食料自給率には反映されないのですが.....。

さて、ユキノシタの登場です。

建物の脇のジメツとしたところに、ベタッと貼り付いている様は、お世辞にも格好良いとは言えません。ですが、良くよく見てみると...

花は、太い筆にたっぷりと墨を含ませ、自信満々、のびのびと大書した「大」という文字。しかも、花びらの上の3枚にはピンクの濃淡のお洒落な斑点模様があり、ツンツンと花びらの外にとび出ている雄しべは、まるで、魅力的な長いまつげのようです。

山登りをしていて、ミヤマダイモンジソウを見かけると、お、綺麗だね、と歓声をあげるのですが、ユキノシタも同じといえば同じ花です。片方には綺麗だと言い、もう片方には見向きもしないというのは、いかにも不公平。

白い斑と茶色の斑が葉脈を幾何学模様として浮き立たせている葉、葉の表面では白、葉裏や茎では紅の粗い毛などの特徴が目立ちます。



画 有田保彰

美味しいのは、葉の天ぷらです。肉厚なのでしっかりした存在感があります。大ぶりの葉は3、4枚も食べると、かなり満足します。

ものの本には、サラダ、和えもの、おひたし、鍋物などとも出ています。・

格付けのAは、味そのものもまあまあいけるということに加えて「こんなもの」まで食べているという、妙な満足感も手伝っているのかも知れません。

虎耳草という名の生薬として耳疾や腫れ物の外用薬、咳止め、解熱に効くそうです。

虎の写真をじっと見ていると、耳の形が葉にそっくりに見えてきて、!!と納得がいきます。(つづく)

活動短信

8/1~8/23

自治労水週間「森の下に何が見えますか Part 1
2 (下草刈り)」

目 8月1日(金)
場 秦野市ヤビツの森
参 40名強
イ L森本⑤、柏倉④、齋藤⑥、飯澤⑨、酒井⑩
公 豊丸

少しガスのかかった下刈日和。馬力のある少数精鋭での下刈り。作業完了間際のシャワーが、火照った体に心地良い。ヒル献血者1名で、今年も無事終了。

(記 5期 森本)

活動短信

、教師のための森の教室

日 8月13日(水)～15日(金)
場 1日目：ヤビツの森他、
 2日目、3日目：やどりき水源林
参 高校教師2名、 県教育センター教職研修課
 藤本氏(2日目のみ立会人兼参加)
公 河野
イ 伊藤⑦(1日目)、高橋③(2日目)、井出①(3日目)
 県教育センターが実施する教員対象の「社会体験
 研修」のうち、公社で受けもつ「森の教室」を3日間
 で実施。応募した10年目の高校教師2名(女性)が参加。

【1日目：下草刈他】

ヤビツの森に到着後、下草刈りの役割、その方法、正しい道具の使用方を説明、ストレッチ体操をして現場に入る。二人とも森林での下刈り体験は初めてのこと、曇り空でも気温が高く汗だくになり取組む。

午後、カマ研ぎの意義、姿勢、砥石の持ち方を説明し、カマ研ぎ実施。研いだカマを持ち、再び草刈りに挑戦。切れ味を確かめながらの草刈り、カマ研ぎの意義が良く理解されたと思う。

休憩の後、車で「札掛の森」に向う。「公証林」を見学、樹齢200年以上のモミの大木に感動。

その後、札掛けの管理棟により展示物等の見学をし、一日目の研修を終了し帰路に着く。

【2日目：間伐他】

間伐作業の手順や注意事項、そして心構え等を説明し、ストレッチを行いボランティア林(後沢)に入山。下見の時に選木しておいた檜を、標高の高い所から伐採、枝払い、玉切りを行う。午前中約2時間で4本間伐を行った。枝掛りが想定されていた為に、ロープを懸け強制的に狙った方向に倒す方式で進めた。

午後は檜の小枝を切り出しナイフで削る“書けない鉛筆”作りのミニ木工作を行った。研ぎの利いた切り出しナイフで絶対に怪我をしない使い方を指導し、各自数本の“書けない鉛筆”完成させた。

(所見)

間伐の仕方等は十分に理解されたと思われる。また鋸切や切り出しナイフの使い方は知識では無く技能なので、経験を積んで体が覚えてくれる事を期待したい。

【3日目：講話・自然観察他】

最終日は森林の役割を認識し、自然に親しんでもらうことを目的に、講話(森林の話)、水生生物観察、自然観察を行った。

森林の話では先に購入したプロジェクターを用い、森林の役割、やどりき水源林での取組みなどについてプレゼンを行った。図や写真を用いて解説することで、こちらの伝えたいことを良く理解していただけたと思う。水生生物観察は寄沢で採取を行ったが、顕微鏡で覗いた水生生物のリアルな姿に、皆さん感動した模様。午後は成長の森、周遊Bコースを案内した。

研修後、同僚や生徒たちを連れて是非また訪問したいという、うれしい感想をいただいた。

しかし、数年続いた「教師のための森の教室」も今年で最後とのこと、いい企画だったのに、少々残念。

下草刈り等体験イベント

日 8月9日(土)9時～15時30分

場 宮が瀬湖畔園地内

参 38名(子供9名)

主催 企業庁・平本、新藤他5名

イ L 柏倉④、落合③、相馬⑤、加藤⑧、

本活動は下草刈り等の体験を通し県営水道利用者に水源林保全のための取り組み、水源林の大切さや水道事業への理解と関心を深めて頂くために企業庁が主催したもので、バス内でビデオ「地球水道」を見ながら作業現場の宮が瀬に向かった。現場は平坦であったが背丈を越すすすきが生い茂っていた。炎天下の作業であったので一人の方が気分を悪くし看護師さんの世話になったが、皆の頑張りにより思いの外早くきれいに刈り上がったので、企業庁の方の判断で早めに切り上げた。もう少しやりたかったと言う人も2～3人いたが、大部分の方は汗を流し心地よい達成感が得られた満足すべき体験になったようである。午後は宮が瀬ダム・水とエネルギー館を自由に見学し、芦ノ湖と同じ4億m³と言う水を貯えたダムと水利用に関する認識を深めて頂いたが、雷も鳴り、暗雲も広がり雨も降り出したので、予定を30分早めて帰路についた。帰りのバス内で、柏倉リーダーが200年天皇皇后陛下をお招きし神奈川県で初めて開かれる全国植樹祭の話がされたが、植樹祭を知っておられた方は1人しかおられなかったため、10/18の森林の集いにも参加され盛り上げてくれるようお願いした。今回の体験を通し、水源林への理解と関心を高めることが出来たものと思っている。(記 8期 加藤)

青春の旅・森林ボランティア

日 8月17日(日)10時～14時半 霧雨のち小雨

場 21世紀の森

参 小学5名、中学16名、大学1名、大人20名

イ L 宮本④、伊藤⑦、山崎⑦、中元⑩、

前日まで茹だるような猛暑であったが、当日は霧雨で暑さもマアマア。お盆休みの影響で予定時間より早くバスが到着。早速、オリエンテーションと準備体操を行う。午前中は、ヒノキ林に入り込んだマダケの伐採。長年放置されていた枯竹が折り重なり中に入ることを拒まれ一苦勞。4班に分かれて班毎に、竹の切り方、切った竹や払った枝の処理の仕方等について説明を行い作業を開始した。途中「ハチの巣」に出会ったが注意事項を良く守り対応し刺される事もなく一安心。お昼近くには薄暗かったヒノキ林も林床まで陽が届くようになり、皆さんの顔には達成感を味合った満足な笑顔が見られた。午後は、霧雨から小雨になったが、内田所長のご好意により研修室で、午前中伐採した竹を使っての作品づくりを始めた。最初から目標に向かって作り始める人、周りをキョロキョロしている人も見受けられましたが終わり頃には、花いれ、箸と箸入れ、剣玉、カップやお父さん用おちょこ等など

個性ある作品に完成させていた。その後は使用した道具の手入れを体験し午後の部は終了。

2時半、玄関前で班毎に記念写真を撮り、充実した一日を過ごした満足感を乗せたバスを見送り、本日の予定作業を終了した。(記 10期 中元)

水源の森林づくり体験

日 8月19日(火) 9時～16時

場 やどりき水源林

参 35名(大人12名・子供23名)

主催 企業庁サービス協会：和智課長、新藤他4名

公 豊丸

イ L宮本④、斉藤⑥、加藤⑧、松本⑧、村井⑨、

夏休み中の親子を乗せた貸切バスは、本厚木伊藤ビル前を出発。車中にて、ビデオ「かながわ水環境を考える」を鑑賞し勉強。

やどりきに到着。オリエンテーションの後、各班順次Bコースを廻る。私は4班。水源林の役割を説明しながら、人工林の代表「スギ・ヒノキ」の見分け方、ミツマタの木を見て「洋紙・和紙」の原料は？、沢では水温当てクイズ。森の世代交代である「ギャップ更新」「切り株更新」「倒木更新」を実際に見て感心する。参加者は、「水源林を知り、野草・樹木のフィトンチッドを思い切り浴びて、気持ちの良い半日でした」との感想。

午後はやどりき自然休養村に移動。ニジマスのつかみどり。子供も大人も嬉々として、目が一段と輝いていた。(記 8期 松本)

森林文化部会「森のクラフト教室」開催報告

日 8月23日(土)、24日(日) 10時～15時

場 二宮町生涯学習センター「ラディアン」ミーティングルーム

参 2日間合計で約50名

イ 井出①、米本②、落合③、篠木⑦、白畑⑦、武者⑦、谷津⑦、松村(俊)⑧、内野⑨、小笠原⑩、金森⑩、時田⑩、中元⑩、松山⑩、斎藤(彰)⑧

【活動内容】

二宮町生涯学習センター「ラディアン」は、文化振興や生涯学習事業の拠点として、まちづくりや地域の活性化を目的に建設され、平成12年11月に開館しました。この場所は、神奈川県園芸試験場があった丘陵地で梨、桃の原木園、保存林や周囲を散策できる巡廻路があります。

今回、竹笛(ウグイス笛)、竹とんぼ、ハイテク万華鏡を始めとして8種類のクラフト材料を用意しましたが、この中で人気があったのは竹笛と竹トンボです。特に小さなお子さんは自分で作ったものが鳴ったり、飛んだりすることに驚きや喜びを感じたようです。この他、夏休みの宿題にと木の葉のオブジェを作成された方や、クラフト作り全般に興味がある大人の単独参加者もいて、当初見込んだ参加対象者より幅広いものになりました。

空いた時間はそれぞれが講師になって固有技術・指

導ノウハウを教えあうなど、作品以外にも「お土産」を持ち帰った二日間でした。最後に今回の開催にあたり、サポーターとして実際に指導に当たられた、又は二宮町内施設へのポスター掲示と多数のインストラクターに御協力を頂きました。厚く御礼申し上げます。

(記 8期 斎藤(彰))



鶴岡八幡宮 林間学校自然観察会

日 8月23日(土) 10時～14時 小雨

場 やどりき水源の森

参 鶴の子会小学1～3年生80名と父兄80名
鶴岡八幡宮関係者30名

イ 中島⑨渡邊③竹島③柏倉④宮本④高崎④森本⑤斉藤⑥山崎⑦加藤⑧久保⑧松本⑩

県 金田

午前にはBコースでの水源の森、午後はやどりき沢での水生生物観察であるが、馴染みの地であったので特に下見は行わなかった。代わりに早めに集合し、水生生物観察道具の準備やコースの下見を当日行い参加者の到着を待った。当日は小雨まじりに加え交通渋滞で30分以上も到着が遅れたので、水生生物は取りやめ水源の森での自然観察のみに絞った。子供達は植物よりは動物の方に興味があるようであったので鹿やムササビ等をまじえ、五感等にうったえながら森林等の話を行った。特に注意したことは雨に濡れたコンクリートや丸太で足を滑らし怪我をさせないことであった。時間遅れの昼食をテントや休憩棟等で取って頂いたが、川原でという子もいたので、雨の日の川原は危険であるということに納得して頂いた。当初心配していた小雨の中での怪我や時間余りもなく、時間一杯十分に森林浴を楽しんで元気に帰って頂いたことは何よりであった。(記 8期 加藤)

やどりき水源林
ミニガイド

10月のトピックス

これはヌルデのむしこぶ。ヌルデシロアブラムシが葉の軸などに寄生してむしこぶを作ります。これを乾燥させたものが五倍子(ゴバイシ:ふし)で、多量のタンニンを含み、薬用(止血、うがい薬)、染料に利用されます。



11月の見どころ

この時期、紅葉が見ごろを迎えます。11月9日には平成20年度の成長の森見学会が予定されています。11月より森の案内人の体制も日曜4名、休日3名、土曜日は2名と充実されます。是非ご家族皆様でいらしてください。

「森の案内人」情報

- 実施時間：毎週土曜・日曜・祝日午後1時より1～2時間程度(冬季休止)
- 集合：水源林入口ゲート前
- 内容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。
- 参加自由、参加費無料
- *10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。
- 問合せ：(社)かながわ森林づくり公社 県民運動課
Tel 0465-85-1900
- ホームページ：
http://www.ny.airnet.ne.jp/k_sirin/
- やどりき水源林までの道順
小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

C、W ニコルさんの講演会

演題「森と海をつなぐもの」
日・時：11月17日 16時～17時
場所：日本科学未来館
新交通ゆりかもめ・テレコムセンター
駅下車・徒歩4分
★入場無料★
主催は海洋調査技術学会で、創立20周年記念行事の一環として行う特別講演です。

◇森のなかま原稿募集◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。写真、スケッチなども募集しております。

送先行

<①手書き原稿送先行>

森 義徳
〒232-0053
横浜市南区井土ヶ谷下町16-3-202
Tel/090-5433-7784Fax/<株リコー・森宛045-590-1910>

<②メール原稿送先行>

【本誌】村井正孝
〒226-0002
横浜市緑区東本郷6-22-1-420
Tel/Fax：045-476-4112
Mail：murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】金森 巖
〒227-0038
横浜市青葉区奈良2丁目10-5
Tel/Fax：045-961-6695
Mail：ik_forester@jcom.home.ne.jp

【CCで】森本正信
〒194-0001
東京都町田市つくし野2-13-7
Tel/Fax：042-796-6011
Mail：morimoto@bikkuri.co.jp

原稿の締切は毎月20日です。

= 編集後記 =

★間伐作業にはいい季節です、チェンソー対応の傷害保険(325円/日)に加入予定です、詳細を知りたい方は私までご連絡ください。また、保険情報のある方もお知らせください (金森)

★皆さんの原稿を拝見すると、本当に文章のすばらしさを感じます。毎月、原稿が届くのが楽しみになってきました。これからもよろしく願います。(森)

★キンモクセイの香りとともに、今年、きのこ狩りを計画しなかったことを、再認識しました。私・個人でなく、きのこの都合に合わせて、イベントを企画したいものです。(森本)

★オーディオのスピーカーを新調した。試聴の時、少し音が神経質な感じがしたが、スピーカーと台の間に木の駒を入れることで見事に解決。巧みな木の力。(井出)

★久しぶりに大涌谷から箱根最高峰「神山」へ登山 冠岳付近はもみじが真紅に染まり、ナナカマドや ミヤマシキミの赤い実が秋をいっそう彩りました。(村井)

★日本を留守にすること40日間、TVラジオなく、文明の利器から遠ざかるヒマラヤ生活は最高!!。汚染された都会の文化は忘れたが、たかトマンズに戻れば、日本の総理は変わる、経済恐慌の発生、好きな俳優も亡くなり、今浦島だった。氷河も見える現地サマ村のチベット族は、TVも電気も無く、かつての日本にあった昔の原風景と生活、子供も大人も働き、道で出会えば、ナマステと手を合わせる。その笑顔が何のけれんも無く、美しかった。(鈴木)

◇年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。
郵便振替口座00230-0-2454
かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。(頒価 200円 送料共)

編集人：森本正信
広報部：井出恒夫、鈴木松弘、
村井正孝、金森 巖
森 義徳

ヤマケイ・カルチャークラブ ●山岳ライター石丸哲也氏同行 「花の遠足」その時期ならではの花と軽ハイキングを楽しむバスツアーをご紹介します。		
小浅間山 日帰り	三義山 日帰り	をくづれ水仙郷 日帰り
出発日：11/20(木)~	出発日：12/18(木)~	出発日：1/15(木)~
横浜駅西口天理ビル前 7:30集合	横浜駅西口天理ビル前 7:30集合	横浜駅西口天理ビル前 7:30集合

ご不明な点がございましたら、下記まで気楽にお問合せください。

ALPINE ツア サービス 株式会社
〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル
Tel:03(3503)1911 info@alpine-tour.com
<http://www.alpine-tour.com>

身近な日本の山旅から世界各地の山岳リゾートや辺境の地までアルパインツアーは自然を愛する方々を地球のデコボコへご案内します。次の山旅は、アルパインツアーで出かけてみませんか。